

<p>平成 28 年 7 月 29 日</p>	<h1>病害虫発生予報</h1> <h2>8 月号</h2>	<p>茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

平成 28 年度茨城県農薬危害防止運動期間中 (6/15～9/14)
 ～周辺環境に配慮し、土壌くん蒸後はしっかり被覆しましょう～
 < 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
水稲：いもち病（穂いもち）、斑点米カメムシ類	1
ナシ：ナシヒメシンクイ（第四世代幼虫）	2
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測	2
果樹共通：チャバネアオカメムシ	3
【その他の病害虫】	
水稲，大豆，サツマイモ，ナシ，ブドウ，秋冬ネギ，夏秋ナス，共通害虫	4
II. 今月の気象予報	5

最新の農薬登録内容は、（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
 茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445
 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
 ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>
 フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報
【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、葉いもちの発病度※（本年値 2.6，平年値 5.6），発生地点率（本年値 46%，平年値 57%）ともに平年並～やや低い。

※ 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは，出穂直後から出穂後 14 日位までである。この期間に降雨が続く場合は，発生に注意が必要である。
- ② 穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は，穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し，上位葉に病斑が進展している水田では，防除を徹底する。

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在，水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数（10 回振り）は平年よりやや多い（本年値 0.39 頭，平年値 0.32 頭）。
- ② 7月下旬現在，本県の斑点米カメムシ類主要種であるクモヘリカメムシの水田内におけるすくい取り虫数（10 回振り）は平年よりやや多い（本年値 0.22 頭，平年値 0.14 頭）。
- ③ 気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年並または高く，降水量は平年並であるが，期間の前半は少雨の状態が続く所があると予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 成虫を対象とした防除適期は，穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ② 幼虫を対象とした防除適期は，出穂 10～15 日後頃（乳熟期）である。斑点米の発生防止には，この時期の幼虫密度を低下させることが重要である。
- ③ ミツバチ被害軽減のため，ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）の農薬の散布をさける。
- ④ 周辺より出穂の早い水田では，成虫の飛来が集中する恐れがあるので注意する。また，収穫の遅い水田では，8月中旬以降に新成虫の飛来により密度が高まることがあるので注意する。
- ⑤ 水田内および水田周辺のイネ科雑草やカヤツリグサ科雑草は，斑点米カメムシ類を誘引するので除草に努める。ただし，水田周辺の除草は水稻の出穂期近くに行くと，斑点米カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので，出穂期2週間前までに終わらせる。

ナ シ

1. ナシヒメシンクイ(第四世代幼虫)

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、フェロモントラップへの第二世代成虫の誘殺数は、地区予察圃（かすみがうら市）で平年より多く、土浦市で平年よりやや多く、地区予察圃（小美玉市，笠間市）で平年並，地区予察圃（石岡市）で平年よりやや少ない。
- ② 7月下旬現在，被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は，土中深く埋める等速やかに処分し，成虫の発生を防ぐ。
- ② 早生品種（「幸水」等）で被害が認められた場合は，中生～晩生品種（「豊水」や「新高」等）で被害が多くなる傾向があるので注意する。
- ③ 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤防除の際には，収穫前日数等に十分注意する。
- ⑤ 薬剤散布の時期については，下記の防除所レポートを参考にする。

防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ 第四世代幼虫を対象とした防除適期は，第三世代成虫の誘殺数がピークに達した日の直後(1～2日後)である。
- ② 各地点の第三世代成虫の誘殺最盛期は，第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から予測した。
- ③ 表中のかすみがうら市，土浦市，筑西市(旧下館市)については，今後，病虫害防除所ホームページで情報を毎週更新するので参考にする。

※薬剤防除の際には，収穫前日数等に十分注意する。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第四世代幼虫の予測防除適期

地点	予測防除適期 ¹⁾		
笠間市(旧岩間町)	8月 9日	～	8月 14日
石岡市	8月 4日	～	8月 9日
かすみがうら市	8月 4日	～	8月 9日
土浦市	8月 9日	～	8月 13日
筑西市(旧下館市)	8月 5日	～	8月 9日
筑西市(旧関城町)	8月 1日	～	8月 6日

1) 予測した第三世代成虫の誘殺ピークの1～2日後とした。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、果樹園に設置した予察灯への誘殺数は、笠間市およびかすみがうら市で平年並である。
- ② 7月下旬現在、ナシにおける果樹カメムシ類の被害果率は平年並である。
- ③ 一部のナシおよびブドウ圃場で、チャバネアオカメムシの飛来が確認されている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。
- ③ 今後、果実が肥大するカキやリンゴでは、飛来する恐れがあるので注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水 稲	縞葉枯病	発生量：多い (県南, 県西地域)	7月下旬現在, 平年より多い発生である。
	紋枯病	発生量：やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
大 豆	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると, 発生が多くなるので注意する。県内では, チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているため, それ以外の薬剤を使用する。
	チョウ目幼虫	発生量：やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	カメムシ類	発生量：平年並	7月下旬現在, 平年並の発生である。
イ サ ツ マ モ	ナカジロシタバ	発生量:やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
ナ シ	黒星病	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
ブ ド ウ	褐斑病	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
ネ 秋 ギ 冬	ネギアザミウマ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在, 夏ネギにおいて平年並～やや多い発生である。
夏 秋 ナ ス	うどんこ病	発生量：やや多い	7月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。
	ハダニ類		
共 通 害 虫	ハスモンヨトウ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在, フェロモントラップへの総誘殺数は, 龍ヶ崎市で平年より多く, 土浦市で平年並～やや多く, 県予察圃(水戸市), 銚田市, 筑西市で平年並である。
	オオタバコガ	発生量：平年並	7月下旬現在, 直近1か月間(6月第5半旬～7月第5半旬)のフェロモントラップへの誘殺数は, 県予察圃(水戸市), 筑西市で平年よりやや多く, 銚田市, 土浦市, 龍ヶ崎市, 古河市で平年並, 坂東市で平年よりやや少ない。 夏秋ナスの一部圃場で発生を確認している。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月30日から8月29日)

気象庁(7月28日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	40	40
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

期間の前半は、少雨の状態が続く所があるでしょう。平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 7月30日(土曜日)から8月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 8月6日(土曜日)から8月12日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 8月13日(土曜日)から8月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類※(FRACコード、IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成28年4月28日発表)の防除所レポートを参照してください。